**○クロハシテンナンショウ伊豆に産す** (倉田 悟) Satoru KURATA: *Arisaema monophyllum* var. *atrolinguum* from the southern foot of Mt. Amagi, Prov. Izu.

沢田武太郎氏により1932年始めて黒嘴天南星が採集されたのは相州箱根山中の須雲川流域滝坂である。同地附近にも少いものの様で私も戦後畑宿にて採集した事はあるが，箱根山中と雖も須雲川流域外での自生を知らなかつた。しかるに昨1952年5月下旬伊豆南天城の上河津村沼ノ川より入つた海抜350m附近の渓沿いにて既に花季を過ぎた本種を1株見出した。雌株で佛焔苞は萎縮しかけて居りヒトツバ天南星との区別に稍々不安を感じたが，ヒトツバ天南星の佛焔苞葉状部は花後萎縮しても汚淡褐色となるのに対し，この採品は佛焔苞葉状部が黒紫色を呈していた。念の為東京にて栽培し今春を待つた所，3月末より4月上旬にかけて見事に開花しクロハシ天南星である事を確認した。過日国立科学博物館の丸山尚敏氏より同氏も今春上河津村の大滝並に釜滝附近にて本天南星を採集された事を御聞きし，南天城の河津川流域には点々自生する事が分つた。今後北天城から箱根にかけて自生地発見が期待される。花期を逸すればヒトツバ天南星との区別は不可能であるが，ヒトツバ天南星も伊豆には少く浄蓮滝附近の他，仁科村の白川及び宮ヶ原には確実に自生している。

尚始め，クロハシ天南星のヒトツバ天南星から区別すべき特性として，(1) 植物体が高さ1mもあつて巨大なる事，(2) 佛焔苞葉状部が前方へ屈曲している事，(3) 同部が黒紫色を呈する事，(4) 花序附属物が殆んど真直ぐで前屈しない事等があげられたけれども，(1) は成長の良否による性質であり，(2) は開花中の時期に関係し花が終りに近付けば前屈して来る。(4) については私が畑宿にて採集したものは著しく前屈せる花序附属物を持つていたし，ヒトツバ天南星においても殆んど前屈しない場合がある。従つて (3) の佛焔苞葉状部の色のみが最も信頼出来る区別点となり，又花序附属物の少く共上部が同様に黒紫色を呈する事もヒトツバ天南星と異なる。ヒトツバ天南星も葉状部基部近くの稍々八の字形をなす模様を境にしてそれより下部は白く上部は淡緑色にして明らかに色を異にするが，クロハシ天南星はこの上部が全く黒紫色となつたものである。以上の考察から本天南星をヒトツバ天南星の1変種としたい。

この珍稀な天南星が同じ富士火山脈に属する箱根山と天城山に見出される事は，北は陸中から西は信州迄広く分布するヒトツバ天南星よりの起源を物語るものとして意義があろう。

**Arisaema monophyllum** Nakai var. **atrolinguum** (F. Maekawa) Kurata, stat. nov.

*A. atrolinguum* F. Maekawa in Bot. Mag. Tokyo **48**: 48 (1934).

Distr.: Mt. Hakone of Prov. Sagami and Mt. Amagi of Prov. Izu.

This variety is distinguished from the typical form only by its blackish purple limb of the spathe and its blackish purple appendage—at least in the upper part—of the spadix.